

機関誌 投稿手引及び執筆要領

投稿手引

1. 投稿内容

作業療法に関して学術的に貢献する論文の投稿を受け付けています。

論文とは「研究と報告」「短報」「実践報告」(以下論文という)などを示します。ただし、他誌に発表された論文や投稿中の論文は受け付けません。

この他、自働具や検査器具及び遊具などの使用や新しいアイデアを紹介する「OTの工夫」欄、職場や研究グループの仲間などについて紹介する「私の仲間」欄、掲載論文へのコメント等を述べる「意見」欄、研修会等の実施や体験について報告する「印象記」欄への投稿も受け付けます。

2. 倫理的事項

著者は、著作権や研究対象者の人権の尊重に努めてください。

3. 論文の種目と長さ

論文の種目と長さの基準は以下の通りです。

(1) 研究と報告

総説・研究報告・症例報告が含まれる。総説とは、特定テーマについて過去の研究を概観し、論評を加え、将来的展望を加える目的で書かれたもの。研究報告とは、実験、調査、臨床経験、理論研究などから得た新所見または見解を記述し論考を加えたもの。症例報告とは、治療や訓練をとおして経験した症例や作業療法に関連する問題を独自の解決法などをまとめて報告するものとする。

論文の長さは、本文・文献・図表合わせて400字詰め原稿用紙30枚以内、仕上がり8頁以内とする。図表は、1枚に1点で10枚以内とし、1枚は仕上がり1/4頁相当の大きさとする。

(2) 短報

ある所見や見解を先取りするために書くもの。後で詳しい報告を「研究と報告」として書くことが望ましい。

論文の長さは、全体で400字詰め原稿用紙8枚以内とし、図、表各1点は原稿用紙各1枚に換算してこの中に含まれる。

(3) 実践報告

医療、保健、福祉、行政などで実践する作業療法士の活動を明らかにする目的で報告することが望ましい。論文の長さは(1)に準じる。

4. 査読と採否

原稿の採否は、査読委員の審査の意見を元に編集委員会が決定します。場合により、加筆、修正をお願いすることがあります。また、多少の字句の訂正をすることがあります。

5. 査読結果の通知

査読結果は、学術局から投稿者に査読結果を通知し、「修正」や「不採択」の場合にはその理由を明記しています。

6. 執筆形式の確認

この規程の他、下記に示す執筆要領にそっていることを確認して下さい。

7. 原稿

査読及び編集作業を効率的に行うため、原稿は原則としてデータファイルにて受付します。

8. 原稿受付窓口

E-mailにて下記宛にお送り下さい。

E-mail:nagaku-sadoku@nagasaki-ot.com 編集委員会(学術局内)

(平成23年4月1日付)

執筆要領

1. 原稿は全て横書きとし、A4用紙に、40字×40行を見やすく配列して下さい。
2. 冒頭に種目（研究と報告、実践報告等）を明記して下さい。
3. 論文は、表題頁、要旨、本文、文献、図・表から構成されます。
4. 表題頁には、表題、著者名（原則5名まで、「原稿投稿規定」を参照）、所属、キーワード（日本作業療法士協会学術部によるキーワード集を参考に3~5個）を記載して下さい。また、表題、著者名、所属を英文で表記してください。
5. すべての論文に400字以内の要旨をつけて下さい（短報、実践報告の場合も同じ）。英文の要旨は必要ありません。
6. 論文の本文は、原則として、はじめに、方法、結果、考察、結語が明らかになるように書いて下さい（特に「研究と報告」の場合）。
7. 文章表現は以下の点に留意して下さい。
 - 現代かなづかいとし、数字は算用数字、数量は国際単位系（SI単位）記号を用いる（例；m, cm, mm, ml, kg, cm²など）。
 - 外国人の人名には原語を用い、活字体で明瞭に書く。
 - 術語は出来るだけ訳語を用い、必要に応じて（ ）内に原語を入れる。日本語化しているものはカタカナとする。
8. 倫理上の配慮について
論文として掲載される研究は、調査・研究の倫理的原則に従ったものである必要があります。投稿者は研究対象者の権利を尊重した表現を行う義務があります。編集部は必要に応じて、これらの事項に関する証明を投稿者をお願いすることがあります。
9. 引用・転載について
論文作成にあたっては、著作権についての配慮を行ってください。論文中に他の著作物からの引用を行うときには、その出典を明記してください。また、引用の範囲を超えた「転載」には著作権やその著作物の出版者の許諾が必要です。論文が掲載されるために必要となる「転載」についての手続きは、投稿者が責任を持つこととします。
10. 文献リストは引用文献のみとし、筆者の姓のABC順または引用順に配列して下さい。筆名は5名までを記載し、6名以上は“他”とすることを原則とし、表記の形式は以下にならして下さい。
 - 1) 岩間孝腸, 原 英修, 清水 一: 座位保持機能未獲得な重症心身障害児の姿勢と感覚遊び刺激に対する反応. 作業療法 11: 358-365, 1992.
 - 2) 中村隆一, 斉藤 宏: 基礎運動学. 第3版, 医歯薬出版, 東京, 1987.
 - 3) 米倉豊子: 内科的疾患に対する作業療法. 原, 鈴木・編, 作業療法各論(リハビリテーション医学全書10), 医歯薬出版, 東京, 1978, pp.393-406.
 - 4) Witt A, Cermak S, Coster W: Body part identification in 1-to 2-year-old children. Amer J Occup Ther 44: 147-153, 1990.
 - 5) Enna CD: Peripheral Denervation of the Hand. Alan R Liss, Inc., New York, 1988.
 - 6) Reid J: Computer and occupational therapy. In Creek J(ed), Occupational Therapy and Mental Health. Churchill Livingstone, New York, 1990, pp.267-288.
11. 図・表は次の点に留意して下さい。
 - 図は鮮明でそのまま製版できるものを準備する。
 - 写真（図として扱う）はカラー写真より白黒写真の方がきれいに仕上がる。トリミングを工夫する。
 - 図・表はすべて表題をつけ、本文と別にまとめる。図は表題のほかに説明もつける。
 - 本文中および欄外に図、表の挿入場所を明示する。
 - 引用・転載の図・表は、それぞれの出典を明記する。

（平成22年3月1日付）